

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TSヒマワリ			
○保護者評価実施期間	2024年 10月 1日 ～ 2024年 11月 2日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数)	28名
○従業者評価実施期間	2024年 10月 1日 ～ 2024年 11月 2日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 11日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域とともにつくる活動、地域に向く活動 【地域の人を巻き込んだおまつの開催やマルシェの参加。マルシェや音楽会に向く】	地域の中にある事業所として、日頃からあいさつをしたり、地域開催のまつりに出店したりと、「TSヒマワリ」を知ってもらう取り組みを行っている	子どもたちが役割を持って取り組めるよう、自主生産品を販売する機会を増やす
2	受入対象の特化 【特別支援学校の中高生の受け入れ】	体力維持や自身で目的地に着く達成感を持つため、公共交通機関のバスを利用し、学校から事業所まで移動している。公共交通機関を利用経験を増やすことで、卒後の進路先の選択肢を広げている	自己効力感を上げる・卒後の進路先の選択肢を広げる目的として、利用時（長期休み等）の来所方法を新たに提案していく（公共交通機関の利用や自力で来れる場所でのポイント送迎）
3	受入対象の特化 【市内中学校の支援級在籍生徒の受け入れ】	中学生というより複雑になる環境やコミュニケーションが求められる中で、学校や家ではない第三の居場所となる存在として、楽しい・辛いを共感しながら子どもたちに向き合い、寄り添う声掛けをしている。必要な場合は、気持ちの表出ができるよう、一対一で話せる環境をつくっている	レクリエーションを取り入れ、職員やボランティアなど、関わる大人を増やし、同年代との時間を楽しむ機会を提供していくことで、コミュニケーションや人とのやりとりの経験を積み重ねていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているかが課題	年3回程度の保護者交流イベントを開催している。LINEや紙面での周知を行っているが、参加率が伸びない。	どのような保護者交流を求めているかアンケートを行う。
2	非常勤スタッフとの情報共有	支援手順書や個別支援計画で深く共有しきれていない内容がある	支援手順書は再周知する 個別支援計画は1回のミーティングで共有する人数を増やしていく
3	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少ないことが課題	どのような交流を求めているかの検討を行う。中高生を受け入れ対象としているため、小学生との交流の機会がない。	同年代のボランティアの受け入れをしている。SNS等で周知していく。